

せいりょう園

[発行] 社会福祉法人はりま福祉会 特別養護老人ホームせいりょう園

〒675-0016 兵庫県加古川市野口町長砂 95-20 TEL 079-421-7156 FAX 079-421-6422

平成23年 7月 第125号 年間購読料1,000円(1部100円)

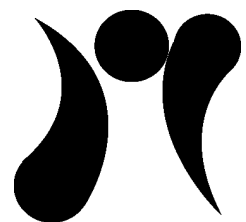
メール seiryoen@bb.banban.jp ホームページ <http://www.seiryoen.or.jp>

地域福祉と介護保険制度の転換に向けて

: 人として最も創造的な営みとして、老いと死を支える為に

- 1 3月11日に東北・関東で起こった地震・津波・原発事故と続く事象は、人間の文化や文明のあり方に、鋭い疑問を投げ掛け、科学を万能とする傲慢さへの反省を迫り、自然の営みを畏敬する心を求めます。3万に近い死者に代えて、暮らしや街の在り様を見直し、復興への途を探らねばなりません。
- 2 多数の死者に代える為には、日常的に迎えている『人の死』の意味や価値について考える事が『原点』です。超高齢社会の今、年間に約120万に近い人が死を迎え、一方で生れる子供は110万人を切り、人口が減少しています。老いた人の死が、次の世代の命と希望につながらず、持続不能な社会に陥っています。
- 3 今、高齢者の介護現場で『何時までも生きていて欲しい』と願う家族の意向に添って、『胃ろう』を着けて命をつなぐお年寄りが、40万人近くに増えています。老いの終末期で『暫くの間生かされる命』に、普遍的な意味や価値が在るのか、昨年7月にNHKが特集番組で『胃ろうの功と罪』を問い掛け、大きな議論を呼んでいます。
- 4 高齢者は必ず要介護になり、重度化して死を迎えます。現在では、全死亡者の83%が病院で死を迎え、高齢者医療に給付する17兆円が重く押し掛かります。老いに抵抗し死を遠ざけてきた人には、『死は敗北』としか映らず、死を遠ざけて得た命が新たな命につながらず、高齢化の裏側で超少子化が進んでいます。次の世代に巨額の負債を残し、世代間が断絶しています。
- 5 『檀山節考』が描く貧しい農村では、一家と集落の存続を願って山で死を待つ姥の想いに代えて、子や孫が姥の暮らしを引継ぎ、貧しいながらも逞しく生き抜いています。姥の死は敗北ではなく、子や孫の生きるエネルギーを生み出す希望の営みです。そのような営みが、貧しい農村・漁村で連綿と引継がれて、今の豊かな日本につながって来ました。

(次ページへつづく)



(前ページのつづき)

- 6 高齢者介護の現場では、少数ではあっても自然な営みの中で迎える死に遭遇し、『不思議な生命力』を感じる場面を経験します。人間の叡智を超えた不思議な生命力を感じるとき、人の命が自然界の営みの一つである事を実感します。そこには、巨大な地震や津波を生む自然の力を畏怖する心と相通じるものがあり、目の前に在る一つの老いと死の営みを、畏敬の念を込めて見守り、自然の生命力を感じ取る感性を磨きたい、と願います。
- 7 人も社会も文明も、自然界の営みの一部と観るとき、老いと死の過程は、ご本人やご家族のものであると同時に、自然の営みの一つとして、葉っぱのフレディのように、永遠の命をつなぐ希望の営みです。老いに抗わず、自然の摂理に添って生命を完結させる老いの手順を、遺伝子が伝えています。
- 8 生殖機能を失った高齢者は、人生を締め括る過程で、遺伝子では伝わらない思想を伝える重要な役割を担います。死を控えて今を生きる喜びを現し、不思議な生命力を発揮し、様々な体験を次世代に伝えます。老いた命への医療は、遺伝子を伝える役割を残す若い命への医療とは当然に違い、死期を不自然に速める事も遅らせる事もせず、遺伝子情報に任せたいと願います。
- 9 ケアの現場では、老いた命の営みと死を自然現象として、在りのままの姿を畏敬の念を込めてお世話し、主役の誇りと尊厳を大切にしたい、と願います。敬意と尊厳を込めて看取られた命は、関係者の心の中で永遠の命として生き続け、人にもみ許された創造性を発揮します。死後にも存在する命を感じ取る心が、思想性の豊かな人生への途を開き、出産と誕生と子育てを支えます。
- 10 現実の老いの過程は、知性も理性も体力も失う不安の中で、生活経験で培った感性や感覚と、自らの遺伝子情報とで不安と折り合いを着け、主役として老い、主役として死に臨みます。例え認知症になっても、要介護5になっても、主役としての誇りを失わずに人生を締め括りたい、と願います。介護に関与する人は、主役の誇りと尊厳を大切に、敬意を払って見送る役割を担います。老いと死は、次の世代に命と希望をつなぐ創造的な営みです。
- 11 予防重視型介護保険制度の下で、高齢者の多くが加齢に抵抗して老いと死への準備を怠り、人生の最終場面で右往左往して、83%の人が病院で人生を締め括ります。医療の制度と介護制度が「人としての最期」を支えず、高齢者が地域社会から去り、世代間が断絶しています。地域福祉と地域包括ケアにおいては、高齢者が地域社会の一員として、自然の摂理に添って老いと死に備え、受容し、主役としての誇りを持って、穏やかに人生を締め括る姿を支えたい、と願います。その姿を観て、次の世代が命と生活を引き継ぎ、持続可能な社会が実現します。

(次号へつづく)

せいりょう園 渋谷 哲

せいりょう園 待機者状況 <平成23年7月13日現在>

○入所判定済み者 406名 (グループの内訳)

Iグループ…131名 IIグループ…159名 IIIグループ…104名

○入所判定済み者の現在状況

在宅156名/特別養護老人ホーム入所中14名/医療機関入院中108名

老人保健施設入所中90名/ケアハウス入居中5名

グループホーム入居中16名/所在不明5名

○辞退その他 せいりょう園入所1名/他施設入所0名/辞退4名/死去7名



さて、今回は前回に引き続いて、免疫力が上がる実践編を考えてみよう。これから述べる運動、動作の大半はすでに周知のものであるが、生活習慣の中にこれらの運動、動作を取り入れることは非常に有効である。

たとえば、まず、ウォーキングやジョギングなどの低負荷の有酸素運動から始め、体調に気を配りながら、ウェトリフティングや短距離走などの無酸素運動にトライしてみる。

次に、筋力アップの方法として、先達が強調されたところを挙げて見ると、

- 1) 姿勢正しく歩く・・・背筋を伸ばし、肛門を引き締めるようにして歩く。7割の筋肉が臍以下にあるので、この周辺の筋肉を鍛えることはとても有効なことだ。
- 2) 筋肉トレーニング後には蛋白質を摂る・・・10分以内に牛乳などを飲むのがよい。
- 3) スロートレーニングの薦めとして・・・スクワットなどは、1回1分くらいで15回くらいゆっくりやるのがよい。
- 4) 体幹支持筋群を鍛える・・・姿勢を正し、腹を引き締めるようにする。

かくして健全な心身がそこに生まれていなければならない。

さて、低体温者というか、冷え性といわれる人は、体幹はそれほどではないのに、手先や足先が冷たくなってしまう人のことで、低血圧や運動不足がこれを助長する。この改善策は、下半身の筋肉を鍛えることだ。そのためには、歩くことと、スクワットも効果的だ。

身体を鍛えるということは、ハードな運動だけではなく、睡眠をとり、身体を休めることも必要なのだ。

その睡眠は、最低7時間以上眠り、目覚ましを使わずに起きることが重要であり、また朝起きたなら二度寝はせずに起きてしまうことも大切なのだ。そして寝る時は、部屋を真っ暗にして眠ること。暗いところで睡眠に有効なメラトニンがよく発生するとのことであり、より多く取り込むことができるそうだ。メラトニンは夜10時から午前2時までに最もよく分泌されるようであるから、この時間帯は寝るようにしておくのがよい。

ここで免疫細胞の働きを高める食品をいくつか挙げてみると、ねぎ、きのこ、ねばねば食品として、おくら、納豆があり、癌の発生を防ぐ食品としては、にんじん、ブロッコリー、大豆があり、ストレスに負けない食品としては、玄米、トマト、かぼちゃなどがある。

食事は一口30回噛み、30分以上かけて食べるように心がける。また、就寝前4時間は何も食べないのがよい。空腹状態で寝ると、内臓脂肪がたまりにくいからだ。

最後に、笑いは人間が持っている卓越した防衛本能といえる。腹が立っても笑いで返せばすべて丸く治まることに着目しよう。

東日本の被災地への『募金』をお願いします



全国地域包括・在宅介護支援センター協議会では、岩手県・宮城県・福島県等の被災地の県協議会を直接に支援する募金活動を行っています。

テレビや新聞でご存知のように、『街』が無くなってしまっています。死者・行方不明者2万数千人の命に代えて、その命を街を創造する礎として、新たな街を創り、其処に地域包括ケアを実現する為に、地域包括支援センターと在宅介護支援センターは、地道に、息長く、着実に、活動し続けなければなりません。

多くの皆様方に、息の長い支援と募金をお願い致します。

全国地域包括・在宅介護支援センター協議会 常任委員
せいりょう園老人介護支援センター施設長 渋谷 哲

事業所毎に募金箱を置いていますので、ご協力をお願い致します。

この募金は、「包括・在介協 義援金口」宛に振込みます。

介護についてみんなで語ろう会

テーマ「介護が必要な方の生活の場所について」

せいりょう園老人介護支援センター
社会福祉士 吉田 知一

高齢になった方や介護が必要な方の生活の場所について皆さんはどういった場所をイメージしますか。施設を希望される方のイメージでは特別養護老人ホーム、所謂老人ホームをイメージされる方が多いように思います。実際に施設の入所申し込みの相談の多くは老人ホームを希望される方が多いです。しかし、詳しい話を聞かせていただくと、老人ホームではなくケアハウスやグループホームなどの他の施設の方が、ご本人の希望や体の状態、経済的な問題などを考えると、より良い環境だと感じることもありますし、施設によっても介護サービスを提供する仕組みが違います。

せいりょう園でも複数の入所施設がありますが、今回は、ケアハウスの説明と個人の所有の建物であるバリアフリー賃貸マンション「リバティかこがわ」についてお話をさせていただきました。

○ケアハウスせいりょう園（軽費老人ホームケアハウス）



軽費老人ホームケアハウスは、老人福祉法上の入居施設です。介護保険法の入所施設ではない為、要介護認定がない方でも60歳以上の方であれば入居することができます。外観も施設というよりは、普通のワンルームの賃貸マンションの様な外観をしています。施設内もワンルームの個室のお部屋でトイレ、お風呂、ミニキッチンがあり、ご本人の自宅であるといえます。

介護を受ける仕組みも24時間職員がいる老人ホームとは違います。自宅で受けるサービスと同じでヘルパーサービスやデイサービスを本人の必要な時に必要な分だけ利用していただく方法で利用していただいています。逆に自宅とは違う点は、施設内はバリアフリーでエレベーターがついており、敷地内には訪問介護事業所、訪問看護事業所、介護相談室があり、介護が必要になれば、すぐにでも利用が可能な状況が整っています。

他のケアハウスでは、身体的な介護が必要になり身の回りの事が出来なくなってしまうと退去を言われる場合が多いようですが、せいりょう園では本人、家族が希望されれば最期までケアハウスで過ごすことも可能です。



○リバティかこがわ（バリアフリー賃貸マンション）

リバティかこがわは、せいりょう園の施設ではなく、個人の所有しているマンションです。全室バリアフリーになっており、建物の中には訪問介護事業所、訪問看護事業所、介護相談室がありケアハウスと同じく、必要な時に必要なサービスを受けることが出来るようサポートする体制になっています。また、1階には「喫茶ラヴィック」があり、入居者の方にも自

由にご利用いただいています。

リバティかこがわは介護保険の施設ではなく一般の賃貸住宅であるため、お二人でも住むことが出来ます。お部屋の広さが異なり、一番広いお部屋では41㎡あり、ご夫婦で住んでいる方もいらっしゃいます。

○小規模多機能施設「輝きの家ながすな」

平成18年4月の介護保険制度改正により創設された、地域密着型サービスのひとつです。介護が必要となった高齢者が、終の棲家として生活できるよう、「通い」を中心に「訪問」「泊まり」の3つのサービス形態が一体となり、24時間切れ間なくサービスを提供できるのがその大きな特徴です。せいりょう園では、ケアハウス、リバティかこがわに入居されている方に対しても、利用いただいています。

感想

介護が必要な方の生活の場所は、老人ホームだけではありません。入所出来る施設は限られていますが、それぞれの施設には入所する為の条件や特色があると思います。ご本人の希望、体の状態、介護度、金銭面、施設の設備や介護サービスの内容などから、その方に合った施設での生活が出来ればと考えています。

ケアハウスやリバティかこがわの紹介をすると、自由に出入りが出来、個室で見守りが無い中で、自宅での生活とあまり変わらない生活は不安です、とおっしゃるご家族の方が多いです。しかし、本人の視点からすれば、生活に自由があり、お部屋もプライバシーが確保された空間で、自宅と変わらないその人らしい生活が出来るところであるというふうに考えることも出来るのだと思います。

老人ホームに入所したとしても24時間職員が側にいる訳ではありません。ユニット型の老人ホームも増え、お部屋も個室となり、より個人を尊重した環境が整いつつあります。本人の安全や安心を考えることも尊厳を考えることも、本人を大切に思っただけに変わりは無いと思いますが、実際には施設のハード面は違えど、せいりょう園での介護させていただく内容や方針には大きな違いはあまりなく、在宅を含めて幅広い選択肢で生活をさせていただくことをお勧めします。

ケアハウス等空き情報

<平成23年7月14日現在>

《ケアハウス》

| | | | |
|-------------|----------|-------------|----------|
| ・ 恵泉 | : 1人部屋若干 | ・ 第二ケアハウス恵泉 | : 1人部屋若干 |
| | : 2人部屋若干 | ・ めぐみ苑 | : 1人部屋2室 |
| ・ 汐ガ 御津 | : 1人部屋3室 | ・ あさなぎ | : 1人部屋1室 |
| ・ サリットひまわり園 | : 1人部屋2室 | | : 2人部屋1室 |
| ・ ケアハウスアザリア | : 1人部屋4室 | ・ キャッシル真和 | : 1人部屋1室 |
| | : 2人部屋2室 | ・ 青山苑 | : 2人部屋2室 |
| ・ ウルビツグ はりま | : 1人部屋1室 | | : 1人部屋2室 |
| ・ 清華苑汐ガ ライフ | : 1人部屋2室 | | |

《バリアフリーマンション》 リバティかこがわ 4室

【問合先】 せいりょう園介護相談室
Tel(079)421-7156/(079)424-3433



介護現場発信情報

～かけがえのない^{ひととき}一刻を

新人職員より

介護福祉士 高瀬 美咲

職員になってから2ヶ月以上経ち、今までは実習や研修生として関わってきた事とまた違い、職員の立場になると責任の重大さも感じました。初めの頃は、利用者の顔と名前を一致させる事と業務内容を覚えるのに大変で、環境にもなじめるのが不安や心配もあったが先輩職員方に利用者の現在の心身の状態や安全安楽な介助方法等、丁寧に細い部分も指導してもらったおかげで現在少しずつだが対応出来る範囲は一人で介助を行う事が出来るようになりました。

そして業務に入ってから研修生での観察期間がとても貴重な時間であり、観察力を身につける事の大切さにも気付く事が出来ました。一人ひとりの心身の状態も一日の過ごし方も違い、その人を知っていくにはコミュニケーションや観察等で把握する事が必要です。一人の介助を行なっている時も、ホール全体の利用者の状態を見守り、転倒・転落や普段と変わった様子はないか等、何が起きててもすぐに反応して対応できるように今後も日々の観察力を意識して行動に移していきたいと思っています。実際に学校で学んできた知識以外にも利用者に関わっていくと知らない事も多く、感情失禁の症状であったり、浮腫の状態も手足だけでなく背中や肘等、様々な所にも出来る事を関わりながら知る事がたくさんありました。排泄に関しては、オムツやパットも排泄状況に応じて種類があり、使用する物も一人ひとり違うので、日頃の排尿量や排便の状態を確認する事が大切だと感じました。当て方に対しても尿漏れのないようにソケイ部に浴って当てるが、拘縮がある方の場合には難しく不安であると時間もかかり、何度も体位交換を行なってしまい利用者の身体に負担をかけてしまった時もあった為、反省点を次に生かして同じ失敗を繰り返さないよう、素早く丁寧にこなす事を心がけていきたいと思っています。食事に関しては、トロミの調節が難しく嚥下状態によって使用する量も変わるのでむせ込みや誤嚥のないように注意して提供していきたいです。食事で飲み込みが悪いと時間もかかるので、時間も調節しながら本人のペースに合わせて無理のないように介助を行なっていきたいと思っています。

最近では介助を行ないながら声かけやコミュニケーションを図る事が増えてきました。利用者の方々は悩みや不安が多いので、少しでも安心感を与えられるように対応の仕方や声かけの工夫をし、相手の話を受け止めて傾聴・受容していきたいと思っています。2ヶ月関わってきて、利用者から言われる言葉で落ち込んだり、悩む事もあったが、接していく中で「ありがとう」と言われる一言がとても嬉しくて、さらに丁寧に良い介護を行なえるように頑張ろうという気持ちになり、私は高齢者の方と関わる事が好きで、この仕事は自分に合っていると改めて感じる事が出来ました。



今後の目標として、常に利用者の立場や気持ちを考えて行動し、忘れがちであるボディメカニクスを意識し双方の身体に負担を軽減した介助方法を行なっていきたいです。利用者一人ひとりが日々生きがいを持ち楽しく生活を送れるように支援していきたいと思っています。



講師 天台宗 鶴林寺・浄心院
茂渡 俊慶 ご住職

デイサービス 谷澤 高明

梅雨明けのニュースもちらほら耳にする時期になった。一時と比べると少し気温も下がって、平年並みと聞くが、湿気があり蒸し暑い日が続く。今日も降雨の前触れかどんよりとした空がうっとうしい。今月の仏教講話は天台宗、鶴林寺・浄心院 茂渡俊慶（しげとしゅんけい）ご住職に来て頂いた。ご住職には昨年3月に一度ご講話頂いた。その時は丁度お彼岸の時期で「彼岸」についてご講話頂いた。今回は「お寺」の話から始められた。

鶴林寺には「沙羅」と「菩提樹」の木があり、僅かの間両方の花が同時に咲いている期間があるが、今年は「沙羅」の花の開花が遅れ、6月20日頃やっと咲き揃ったらしい。関西2府4県に「花の寺」と称されるお寺が20数ヶ所あるが、沙羅双樹と菩提樹の両方が揃っているのは鶴林寺だけだと以前聞いたことがある。どちらの木もお釈迦様にはゆかりの深い木で、お釈迦さんが35歳で悟りを開かれた（成仏・成道）のが菩提樹の木の下で、80歳で入滅（お釈迦さんの死）された折、周囲に時ならぬ沙羅双樹の花が咲き、続いて梢が白く枯れた。それはまさに林の中に沢山の鶴が乱舞しているようであった。そこから「鶴林：かくりん」という言葉・名前が生まれたと話された。日本人にとって「成仏」とは「死」を意味するものと考えられがちであるが、本来は成仏は仏さんになること。文字通りお釈迦さんは「生き仏」で、成仏してから入滅するまでの45年間各地をまわって説法されたわけである。

次いで本日のテーマに「お盆」をあげられた。具体的にお盆の話に入る前に、「仏教とお経」について話された。仏教はインドで生まれ、中国、朝鮮を経て日本に伝わったが、その長い距離と時間の間に仏教の教えも変化を遂げていった。又、お釈迦さんが自ら教えを書きつづったのは一切なく、「お経」は

各地で話された事を、聞いた者が忘れない為書きとめたものである。お経の最初に「如是我聞：によぜがもん」（私はこのように聞きましたよ）と、よく出てくるのはその為である。特に中国に於いて元のお経とは内容の違うお経が生まれるが、これは「偽経」と言われ、日本に伝わったものも多いとか。「お盆」の事を書いたお経の中に『盂蘭盆経：うらぼんきょう』というお経があり、お盆は盂蘭盆の略称で陰暦の7月15日の出来事に由来する。勿論陽暦では8月のことであるが、では、8月15日に何があったのか？その事が『盂蘭盆経』にある。

お釈迦さんに『目連：もくれん』という弟子がいた。今でいう超能力を持つ人物であったらしい。目連は亡くなった母が今頃どうしているかその能力を利用して知りたくなった。母は非常に優しく、目連にとって申し分のない母であった為、さぞかし幸せに暮らしているだろうと天上の世界を覗いてみるが、居ない。次に浄土の世界を探しても見当たらない。やっと見つけたのは地獄の底で足を縛られ、天上から逆吊りにされて「水をくれ」、「食いをくれ」と泣き叫んでいる母の姿であった。目連が水を与えようとすると、一瞬のうちに水は煮え湯に代わり、食べ物を与えようとすると、そこから炎が出てたちまち炭になってしまった。途方に暮れた目連はお釈迦さんに、何故自分の母がこんな目にあっているのか尋ねた。お釈迦さんが話されたのは、彼女は目連には優しく、必要なものは何不自由なく与え、良き母であったが、その分他人には非常に辛く当たっていた。目連の幸せは、他の多くの人の不幸の上に成り立っていたのであった。目連はどうしたら良いかお釈迦さんに尋ねた。お釈迦さんは、「修行僧が雨季の間『穴籠り：仏教用語で夏安居（げあんご）』をして、座禅を組んだり、書き物をし

たり、十分な食事も摂れず、修行三昧の期間を送る。雨季の上がる7月15日までに着替え、食物を手当てし、修行を終えた僧たちにそれらを施しなさい。」と言われた。そして目連がお釈迦さんの言われを守った後、地獄の母を覗くと、母は天女と一緒に手に手を取って小躍りしながら浄土へと昇って行くところであった。現在、お盆にいろいろなものを供え、送り火を焚いた後、踊る（盆踊り）のは、この名残である。御霊を送る（たまおくり）の為にやるもので、ゆめゆめお盆前に盆踊りをする事なかれ！

「盂蘭盆」を辞書で引いてみる。「盂蘭盆とは梵語：ぼんご（古代インドの文語）で、『倒懸：とうけん』と訳され、逆さ吊りの苦しみの意とされるが、目連の説話に基づき、祖霊を死後の苦しみの世界から救済するための仏事」とあった。お盆の話も偽経の一つであるらしい。他にも日本には偽経とされるものがあって、「三途の川：さんずのかわ」の話もそうらしい。人が亡くなって四十九日の間のことを『中陰』といい、その期間が終了することを『満中陰』というが、その四十九日の間にあの世へ行く為には渡らなければならない川がある。渡る道筋が三つあり、川のこちら側『賽の河原：さいのかわら』で決められる。河原に老夫婦がいる。一人は『だつえのおばば：奪衣婆』で、死者の着物をはぎ取り『けんえのおじい：懸衣翁』に渡す。翁は衣を木に懸け、枝のたわみ加減で死者の

罪の深さを測る。重い衣は罪深い証で、川の深みを渡らされる。軽い衣は罪軽き証で、川の浅瀬に導いてくれる。残る一つの道筋は、川の上に橋が架かっている、楽々と渡ることが出来るが、これは聖人君子のみの特権であるらしい。ところが日本ではいつしか橋の話は無くなってしまって、舟にとって代わった。いわゆる六文銭で三途の川を渡る話である。「最後に冗談話で締めたいと思います。」と言われて始まった。

ある所に100歳近くになるとても元気なおばあさんがいました。かなりの節約家だったらしく、三途の川での六文銭が勿体無くて、舟に乗らず泳いで渡ろうと思いつきます。そこで次の日から「スイミングスクール」へ行って泳ぎを教わります。日に日に上達していく姑を見た嫁がコーチの先生にお願いに行きます。「先生！三途の川の川幅は分かりません。どんなに幅が広くても泳ぎきることが出来るようにしっかり教えてあげてください。しかし一つだけ絶対に教えないで欲しいことがあります。それは、向こう岸でターンして帰ってくる事だけは教えないで下さい。お願いします。」見事な『落ち』もついて予定の時間でぴたりと終了されました。

子どもの頃のお盆の体験が鮮明に蘇ってきて、懐かしく心休まるひと時でした。また、お時間を作って頂きたいものです。有難うございました。

～第26回せいりょう園夏祭りのご案内～



せいりょう園の夏祭りには毎年、近隣の多くの皆様にご参加頂き、ご利用者やご家族も共に盆踊りを愉しんでいます。今年は少し趣向を変えて、盆踊りの場所と屋台の場所を別にして、ケアハウスやユニット型特養の前の通路に屋台を設置して、地域の様々なサークルやグループの方々に屋台の運営をお任せしたい、と考えています。

せいりょう園の夏祭りとお盆踊りが、地域の方々とせいりょう園のご利用者にとって、今まで以上に楽しく有意義な催しとなるように願い、盆踊りの参加とともに、屋台の運営と営業をお願いできる皆様方のご参加をお願いしたいと考えています。

屋台での購入チケットについては、施設よりの配布はいたしませんので、各々の屋台で直接販売して頂きますようお願いいたします。



盆踊りは従来どおりに、野口太鼓の皆様のご協力を得て、せいりょう園南の駐車場で行います。

★8月7日（日）午後5時より（踊りは6時より7時45分まで）★